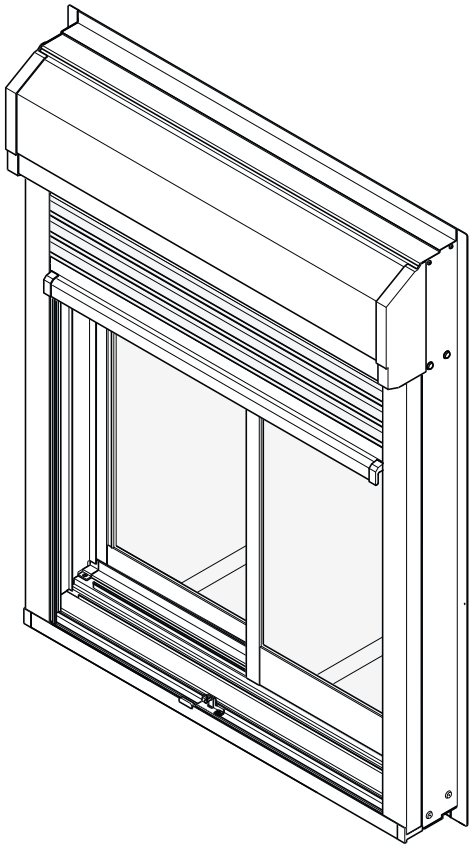
お施主さま用

LIXIL
TOSTEM

窓シャッター
イタリヤ・クワトロ（電動タイプPRS仕様）

取扱い説明書



ご使用にあたって

●この説明書では、お施主さまが商品を安全に正しくご使用いただくための取扱い方法やお手入れ方法などの重要な内容を記載しております。

●ご留意いただくとともに、大切に保管してください。

目　次

■重要なお知らせ……1
■警告用語の種類と意味……1
■特に注意していただきたいこと……2～5
注　意……2
お願い……3・4
ご使用にあたっての留意事項……5
■各部のなまえとはたらき……6
■ご使用前の確認事項……7
プレッシャーリターンセンサーとは……7
■壁スイッチのなまえとはたらき……8
■操作のしかた……9
壁スイッチの操作のしかた……9
■連窓方立の取外し方・取付け方……10
■ロック機構の使い方……11・12
1.ロックとは……11
2.幅木ロックの操作のしかた……11
3.スラット内側ロックの操作のしかた……12
■「イタリヤ・クワトロ」の異常表示……13
赤の点滅……13
緑の点滅……13
■停電時開閉機構の使い方……14～16
1.停電時開閉機構とは……14
2.開閉のしかた……14
3.停電時開閉機構復帰後の操作のしかた……15・16
■点検とお手入れ……17・18
点検……17
プレッシャーリターンセンサーの作動点検……17
お手入れ……18
■シャッターが動かない場合……19
シャッターが動かない場合……19
■商品保証について……20

重要なお知らせ

ご使用の前に

●安全のために、必ずお守りください。
「イタリヤ・クワトロ」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書にしたがってください。
なお、この取扱い説明書にしたがわず、乱用又は誤用によって、ケガおよび損害が発生した場合は、当社およびその販売会社に責任はないものといたします。

1.この取扱い説明書の記載事項の他にも、あらゆる危険が想定されます。したがって、「イタリヤ・クワトロ」のご使用およびお手入れの際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。
2.この取扱い説明書は版権を有し、その権利は留保されています。
3.商品のお問い合わせについては、下記の窓口までご連絡ください。

問合わせ内容	連絡先窓口	TEL
商品全般	お客さま相談センター	0120-126-001
修理のご依頼	LIXIL修理受付センター	0120-4134-33

警告用語の種類と意味

この章では、「イタリヤ・クワトロ」を使用する場合に守るべき安全事項を説明しています。

●この取扱い説明書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)にしたがって、次の2段階に分類しています。以下の警告用語が持つ意味をよく理解し、本書の内容（指示）にしたがってください。

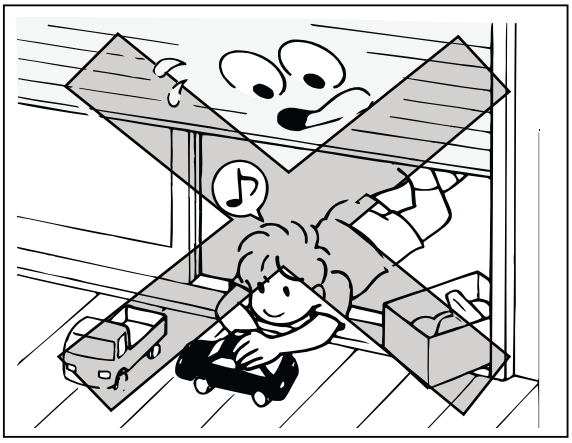
警告用語	意　味
⚠注 意	取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。
お 願 い	特に注意を促したり強調したい情報で、指示にしたがわないと機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

特に注意していただきたいこと

（安全のため、必ずお守りください）
※ご使用の際は商品に張ってあるラベルもよくお読みの上、正しくご使用ください。

⚠ 注　意

●開閉の際には周囲に人・物がないことを確かめてから開閉してください。
挟まれてケガをしたり、物を挟んだりするおそれがあります。
挟まれた場合は、ただちに停止スイッチを押してシャッターを停止させ、開スイッチを押してシャッターを巻き上げてから取除いてください。



●開閉中は開閉位置に顔や手を出さないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。

●開口の下部はプレッシャーリターンセンサーが感知出来ない範囲（不感知帯〔水切りより100mm程度〕）が出る場合があります。この範囲に物がないことを確認してから作動させてください。

●プレッシャーリターンセンサーの点検時に、シャッターの下降が停止しない、シャッターが自動的に上昇しないなどありましたら壁スイッチの停止スイッチを押して、ただちにシャッターを停止させ、開スイッチを押してシャッターを巻き上げてください。事故・故障の原因になります。

●プレッシャーリターンセンサーを点検するときは、シャッター周辺に手をふれないでください。シャッターと窓枠の間に手を挟まれてケガをするおそれがあります。

●改造しないでください。特にモーターおよびスイッチの改造・配線の変更は事故・故障の原因となります。

●点検口を開けて内部の部品を触らないでください。思わぬケガをしたり、作動不良の原因になったりするおそれがあります。

●連窓方立の取付け後に、落し錠のレバー部「閉」刻印が半分かくれるまでレバーを下げて、落し錠受けに固定されていることを確認してください。固定されていない場合、脱落し人身事故や物損事故につながります。

お願い

●外開きサッシに取付けてある場合は、障子が閉まっていることを必ず確認してください。

●短時間で繰り返し開閉しないでください。保護装置がはたらき、一定時間動作が停止することがあります。（故障ではありません）
10～15分程度時間をおくと、再び開閉できます。

●シャッターは少なくても1ヵ月に2～3回開閉をしてください。長期間動かさないとスムーズに作動しなくなるおそれがあります。

●シャッターを無理に引っ張ったり、押上げたりしないでください。思わぬケガをしたり、作動不良の原因になったりするおそれがあります。

●おやすみ又は外出の際は、安全のため､シャッターを閉めてロックを施錠してください。又、必ず内側のサッシも施錠してください。強風・雨の際もきちんと施錠してください。

●ロックを施錠したまま、シャッターの開ける操作をすると、シャッターが破損するおそれがあります。必ず解錠してから開閉操作をしてください。

●シャッターボックスに、はしごをかけたり、上にのったりしないでください。
変形および故障、転落や負傷につながります。

●シャッターボックスに雪が30cm以上積もった場合は、必ず取除いてください。
変形および故障につながります。又、その際は足場をしっかり確保して作業してください。転落・負傷するおそれがあります。

●シャッターが凍結したときは、必ず溶けてから操作してください。無理な作動は故障や破損の原因になります。

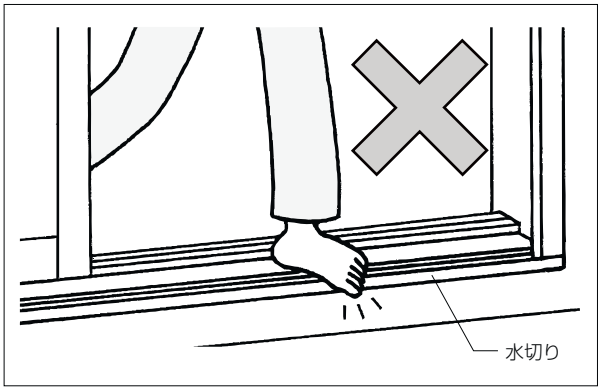
●故意にシャッターボックス内に水をかけないでください。電子部品や駆動装置が組込まれていますので、故障の原因になります。

●壁スイッチは濡れた手で操作しないでください。

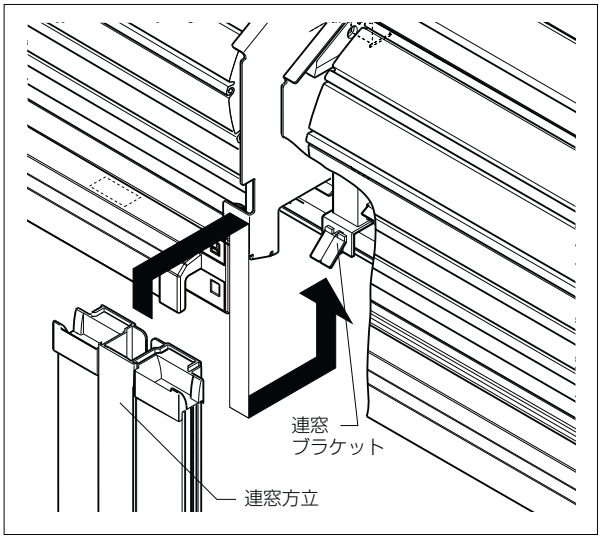
●下枠やガイドレール内部は常に清掃し異物などがないようにしてください。
誤作動の原因になります。

お願い

●「イタリヤ・クワトロ」下部の水切り先端部にのったり、重量物をのせたりしないでください。無理な重さをかけると破損の原因になります。



●連窓方立の上部が連窓ブラケットに差込まれていることを確認してください。差込まれていない場合、脱落し人身事故や物損事故につながります。



ご使用にあたっての留意事項

※「イタリヤ・クワトロ」を閉めた状態でも、スラットの内側が濡れることがあります。これはスラットの表面に横向きの風雨があたった場合、スラットの表面から内側に水が伝わる為です。品質に問題はありませんので安心してお使いください。

※スラットの表面が、雨などに濡れていると開閉後にスラット内側に水滴が付くことがあります。これはシャッターを巻上げると、スラットの表面と内側が重なるため表面についた水が内側につく為です。

※「イタリヤ・クワトロ」は、開閉途中に引っ掛かるような動きをすることがあります。これは電動モーターの出力とシャッターのスラット重量を、巻取り軸に内蔵のスプリング力でバランスをとりながら開閉するという商品の特性上発生します。品質に問題ありませんので安心してお使いください。

※「イタリヤ・クワトロ」を閉めても各部のすき間から、外からの光が入ることがあります。さらに光をさえぎる場合は、遮光カーテンなどをご使用ください。

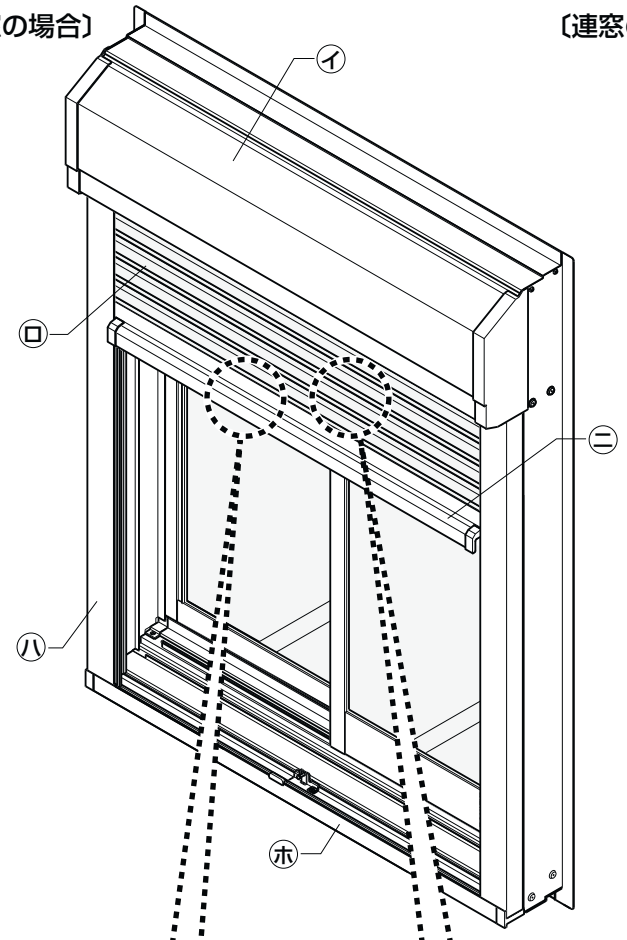
※シャッターを閉めた状態で、強風によりスラットがバタつき、音がしたりすることがありますが異常ではありません。

※クワトロの場合、換気スラットの通気口は閉めることができません。強風や雨の際は、必ず内側のサッシを閉めてください。風や雨水が室内に入ります。又通気口から外の光が入りますので、遮光カーテンなどをご使用ください。

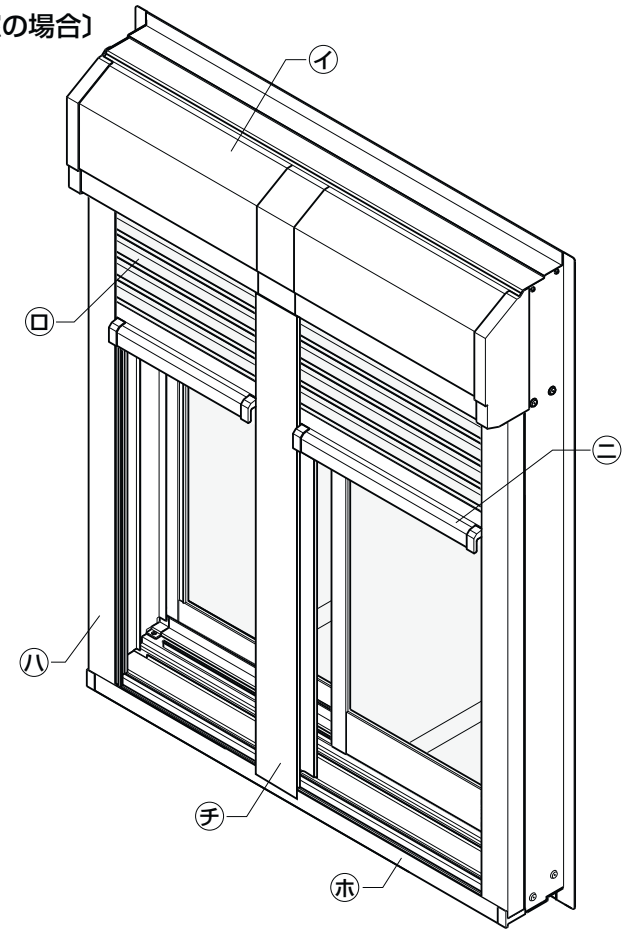
各部のなまえとはたらき

この章では「イタリヤ・クワトロ」本体の各部のなまえとはたらきを説明します。

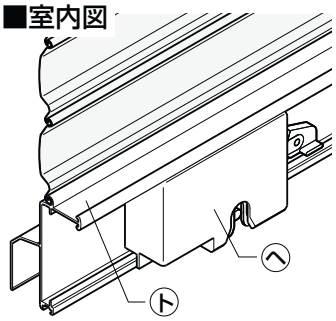
〔単窓の場合〕



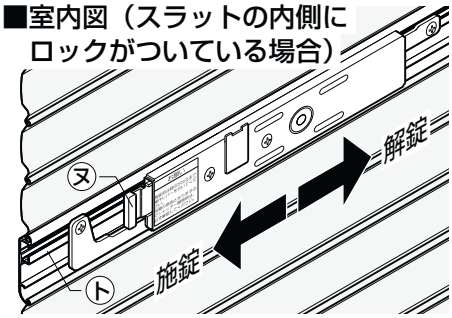
〔連窓の場合〕



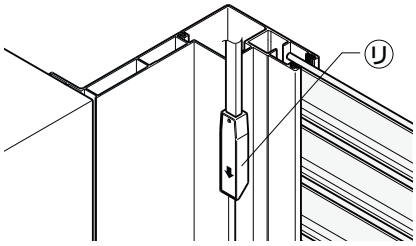
■室内図



■室内図（スラットの内側にロックがついている場合）



■停電時開閉機構操作部（内観左）
（停電時開閉機構付きの場合）



●各部のなまえとはたらき

記　号	なまえ	はたらき
㋑	シャッターボックス(点検口)	スラットおよびモーターなどを収納する部分です。モーターなどの点検口です。
㋺	スラット	カーテン部分です。（スラットの室内側にロックがついている品種が一部あります）
㋩	ガイドレール	両側にあり、スラットの動きを誘導します。
㋥	幅　木	スラットの最下部で、防犯性を高める幅木ロックが組込まれています。
㋭	水切り	底の部分で、雨水などを流します。
㋔	幅木ロック	おやすみや外出するとき使用します。
㋓	手掛け	手動開閉のとき使用します。
㋒	連窓方立	連窓中央部にあり、スラットの動きを誘導します。
㋖	ハンドル	停電時開閉機構の操作用です。（停電時開閉機構付きの場合）
㋕	ロックレバー	おやすみや外出するとき使用します。

※イタリヤ、クワトロの一部サイズには停電時開閉機構が付いていません。

ご使用前の確認事項

プレッシャーリターンセンサーとは

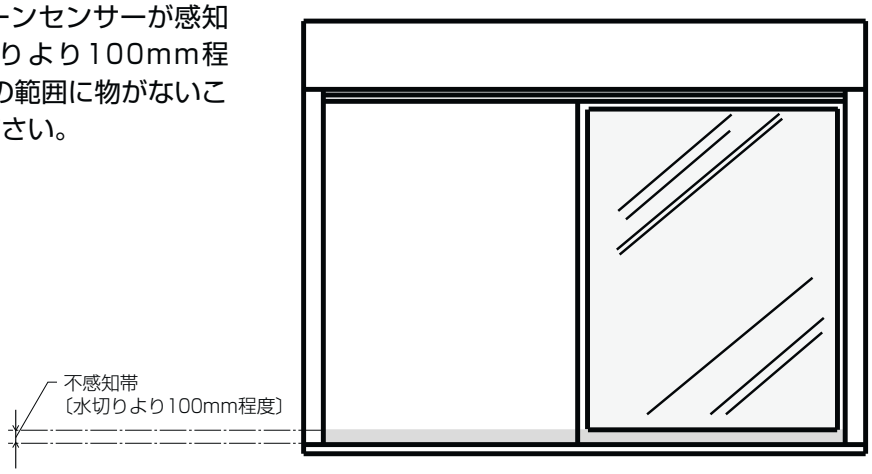
●シャッター下降中、「イタリヤ・クワトロ」の幅木が物を挟むと、シャッターは停止し、自動で反転上昇し全開します。この機構をプレッシャーリターンセンサーといいます。

お願い

●プレッシャーリターンセンサーは一定の負荷を検出して、停止反転する構造です。サイズや障害物の位置によっては、負荷を検出するまでに時間がかかる場合があります。その場合、検出するまでの間モーターが回り続けるため、ボックス内でスラットの巻きだるみが発生します。
巻きだるみが発生した状態で障害物を取除くと、スラットがずり落ちてくることがありますので、開スイッチを押してシャッターを巻き上げてから障害物を取除いてください。

⚠注　意

●開口の下部はプレッシャーリターンセンサーが感知できない範囲（不感知帯〔水切りより100mm程度〕）が出る場合があります。この範囲に物がないことを確認してから作動させてください。

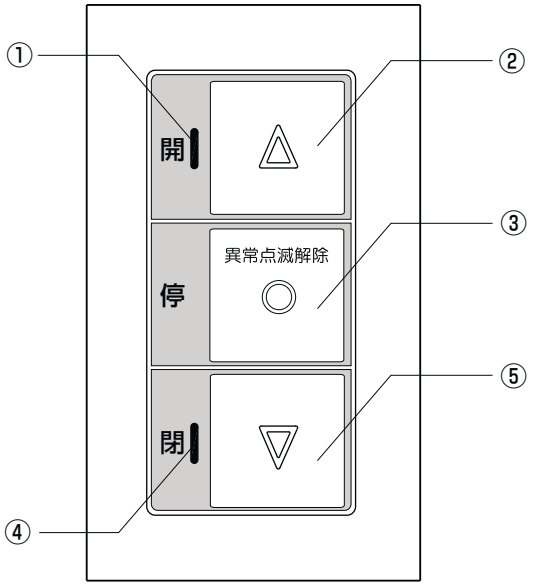


壁スイッチのなまえとはたらき

■壁スイッチ

●操作のしかたはP.9「**■操作のしかた**」をご参照ください。

壁スイッチ



●壁スイッチのなまえとはたらき

番　号	なまえ	はたらき
①	開ランプ（赤）	シャッターが全開又は途中停止の場合、点灯します。 （少しでも開いていると消灯しません。） 以下の2つの状況を感知すると、点滅します。 ・プレッシャーリターンセンサーが異常を検知した場合。 ・シャッターの動作中に幅木にぶらさがった場合。
②	開スイッチ	シャッターが上昇します。
③	停止スイッチ	シャッターが途中停止します。 開ランプ（赤）の点滅を解除します。
④	閉ランプ（緑）	シャッターが全閉の場合、点灯します。 停電復帰後、点滅します。
⑤	閉スイッチ	シャッターが下降します。

※開・閉スイッチを同時に操作した場合は、停止スイッチと同じはたらきをします。

操作のしかた

この章では、「イタリヤ・クワトロ」の操作のしかたについて説明しています。

壁スイッチの操作のしかた

⚠ 注　意

●開閉の際には、周囲に人・物のないことを確かめてから開閉してください。挟まれてケガをしたり、物を挟んだりするおそれがあります。
●開閉中は、開閉位置に顔や手を出さないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。

■壁スイッチからの操作のしかた

❶開ける場合

●開スイッチ②を押してください。
・シャッターが上昇し、開ランプ(赤)①が点灯します。
・シャッターを全開又は途中で止めたとき、開ランプ(赤)①が点灯します。

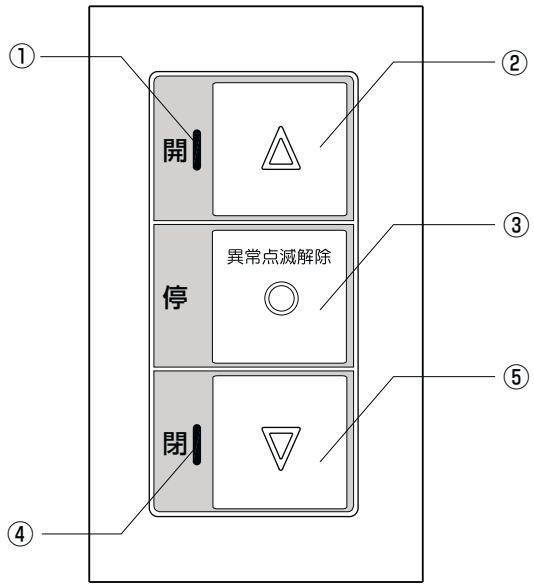
❷閉める場合

●閉スイッチ⑤を押してください。
・シャッターが下降します。
・シャッターが全閉のとき、閉ランプ(緑)④が点灯します。

❸途中で止める場合

●停止スイッチ③を押してください。
・シャッターが途中停止し、開ランプ(赤)①が点灯します。
※壁スイッチはしっかり押してください。
　押し方がゆるい場合、シャッターが反応しないことがあります。

壁スイッチ



●壁スイッチのなまえ

番　号	なまえ
①	開ランプ（赤）
②	開スイッチ
③	停止スイッチ
④	閉ランプ（緑）
⑤	閉スイッチ

連窓方立の取外し方・取付け方

⚠ 注　意

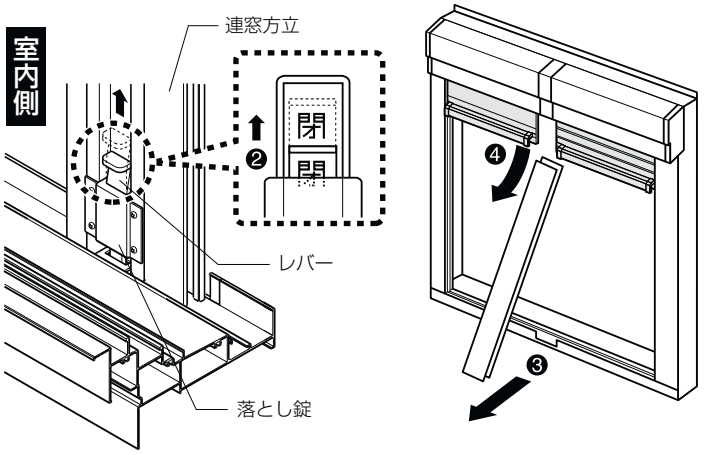
●連窓方立の取付け後に、落し錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かくれるまでレバーを下げ、落し錠受けに固定されていることを確認してください。固定されていない場合、脱落して人身事故や物損事故につながります。

お願い

●連窓方立の上部が連窓ブラケットに差込まれていることを確認してください。差込まれていない場合、脱落して人身事故や物損事故につながります。

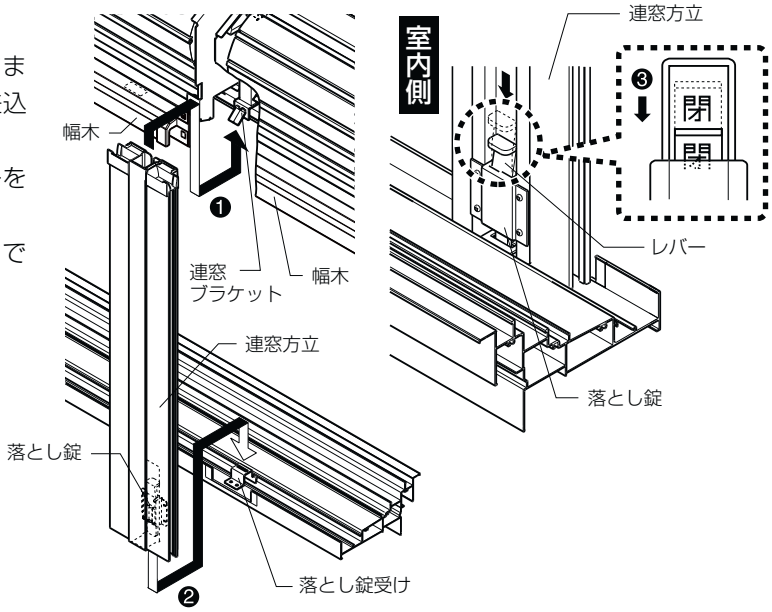
■「連窓方立」の取外し方

①「窓シャッター」を開けた状態にします。
②連窓方立の室内側下部についている落し錠のレバーを引上げます。
③連窓方立の下部を室外側に押出します。
④連窓方立を下方向に下げて、上部から引抜きます。



■「連窓方立」の取付け方

①連窓方立の上部に左右の幅木を差込みます。そのまま連窓方立を押上げ、その上部を連窓ブラケットに差込みます。
②連窓方立の下部を室内側に引込み、落し錠のレバーを下げ、落し錠受けに固定します。
※落し錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かくれるまでレバーを下げ、落し錠受けに固定します。



ロック機構の使い方

この章では、ロックの操作のしかたについて説明しています。

1 ロックとは

●「イタリヤ・クワトロ」は自動ロック機構を装備していますが、おやすみ、外出時の防犯性を高めるため、手動式の幅木ロック又はスラット内側にロックを用意しています。

お願い

●おやすみ又は外出の際は、安全のため、シャッターを閉めてロックを施錠してください。又、必ず内側のサッシも施錠してください。強風・雨の際もきちんと施錠してください。

2 幅木ロックの操作のしかた

■幅木ロックの施錠方法

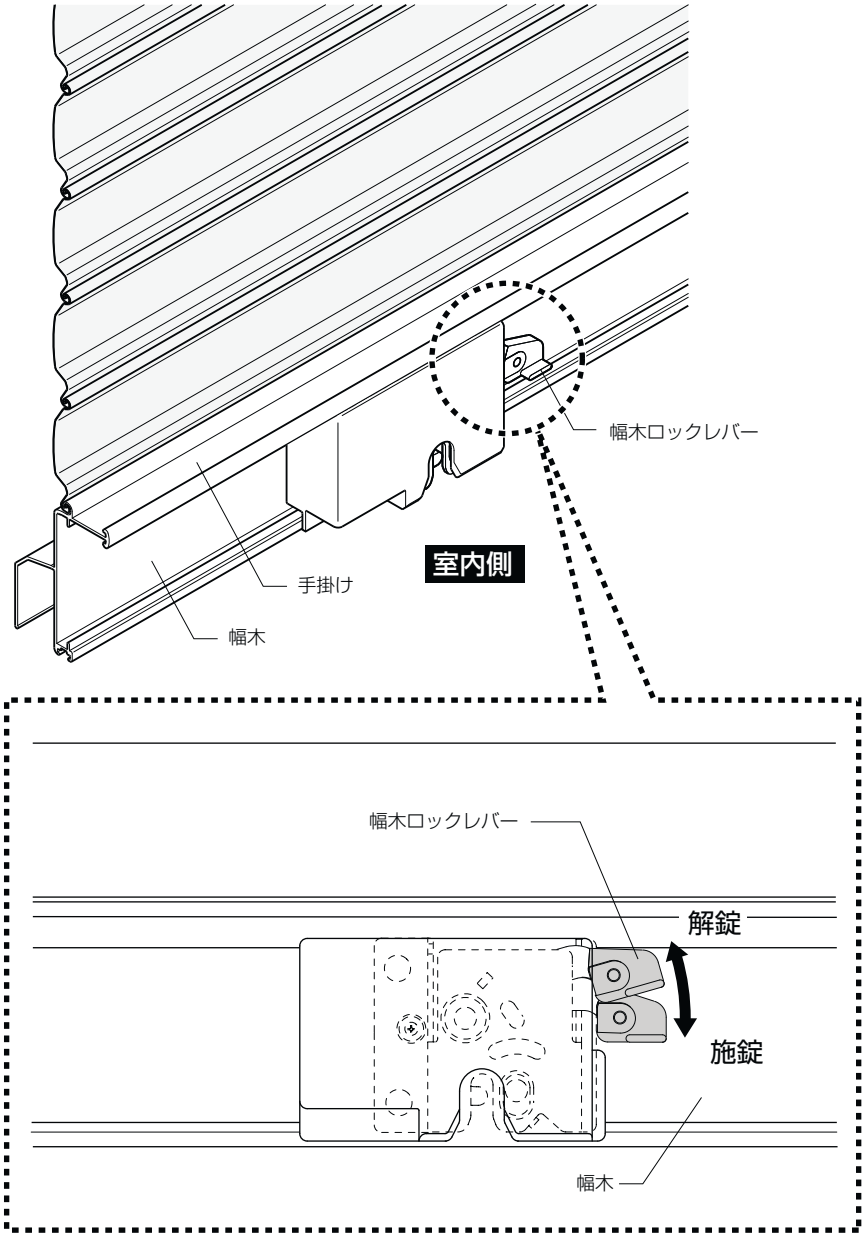
①シャッターを全閉にします。
②幅木の手掛けを下に押付けながら、幅木ロックレバーを施錠側に倒します。

お願い

●ロックを施錠したまま、シャッターを開ける操作をすると、シャッターが破損するおそれがあります。必ず解錠してから開閉操作をしてください。

■幅木ロックの解錠方法

●幅木ロックレバーを解錠側に倒します。



3 スラット内側ロックの操作のしかた

■ロックの施錠方法

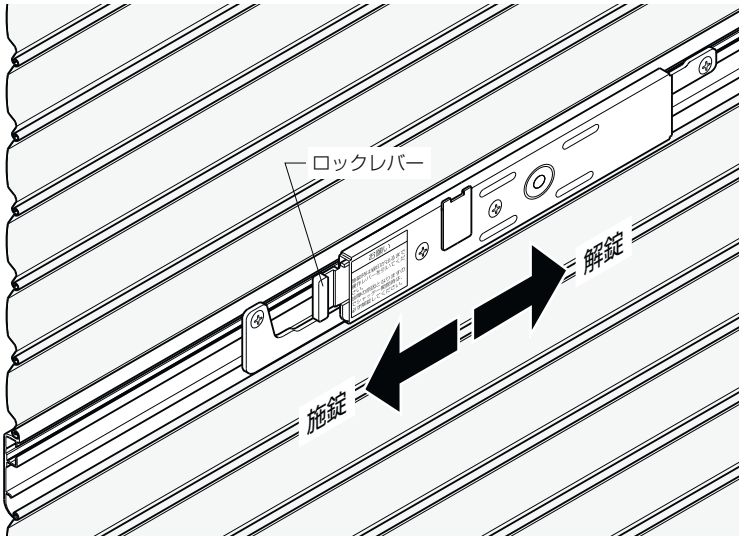
①シャッターを全閉にしてください。
②ロックレバーを施錠側に動かしてください。

■ロックの解錠方法

●ロックレバーを解錠側に動かしてください。

お願い

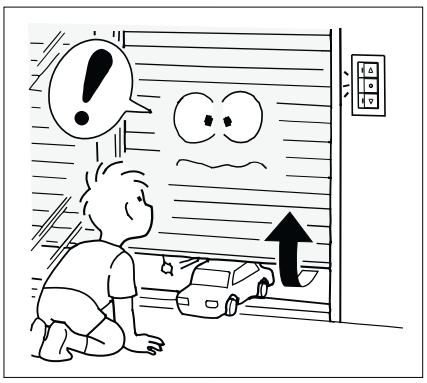
●ロックを施錠したまま、シャッターを開ける操作をすると、シャッターが破損することがあります。必ず解錠してから開閉操作をしてください。



「イタリヤ・クワトロ」の異常表示

「イタリヤ・クワトロ」が異常を感知した場合、開ランプ（赤）、閉ランプ（緑）が点滅します。
この章では、「イタリヤ・クワトロ」の異常表示の原因と解除のしかたについて説明しています。

赤の点滅



■開ランプが赤の点滅をするのは以下の原因が考えられます。
（故障ではありません。）

●シャッター下降中に、幅木が異物(人・物など)を感知した場合
→シャッターはただちに停止し、自動的に上昇して全開で停止します。
（シャッター周辺に異物（人・物など）がないか確認し、取除いてください。）

●シャッター上昇中に幅木にぶらさがった場合
→シャッターはその場で停止します。

●ロックをかけたまま、シャッターを操作した場合
→シャッターはその場で停止します。P.11「**ロック機構の使い方**」を参照して、ロックを解錠してください。

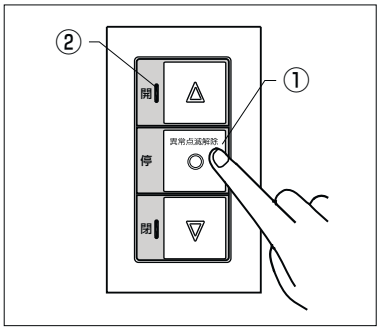
●強風時に開閉した場合

■開ランプ(赤)点滅の解除のしかた

●停止スイッチ①を押してください。開ランプ(赤)②の点滅を解除します。

■強風時に異常表示（開ランプ(赤)点滅）した場合の操作のしかた

●障子を閉め、異常表示を解除した後に開閉してください。
それでも異常を表示する場合は、異常表示を解除せず開又は閉スイッチを押続けてください。異常表示は操作終了後、解除してください。



緑の点滅

●停電復帰後、壁スイッチの閉ランプ(緑)が点滅します。（故障ではありません。）
この場合、次の操作をしてください。

■シャッターが全開状態の場合

●閉スイッチを押し、シャッターを全閉にしてください。閉ランプ（緑）の点灯に変わり通常動作に戻ります。

■シャッターが全閉状態の場合

●開スイッチを押し、シャッターを全開にしてください。開ランプ（赤）の点灯に変わり通常動作に戻ります。

■シャッターが途中位置で停止している場合

●閉スイッチを押してください。全閉後、シャッターが自動で上昇しますので、そのままの動作状態にしてください。
開ランプ（赤）の点灯に変わり通常動作に戻ります。
万一に、開スイッチを押した場合は全開後、閉スイッチを押し、シャッターを全閉にしてください。閉ランプ（緑）の点灯に変わり通常動作に戻ります。（全開にしただけでは閉ランプ（緑）の点滅は解除されません）
サイズにより幅木と水切りの間に、すき間が発生することがありますが、再度全開、全閉をするとすき間はなくなります。

停電時開閉機構の使い方

この章では、停電時開閉機構の使い方について説明しています。

1 停電時開閉機構とは

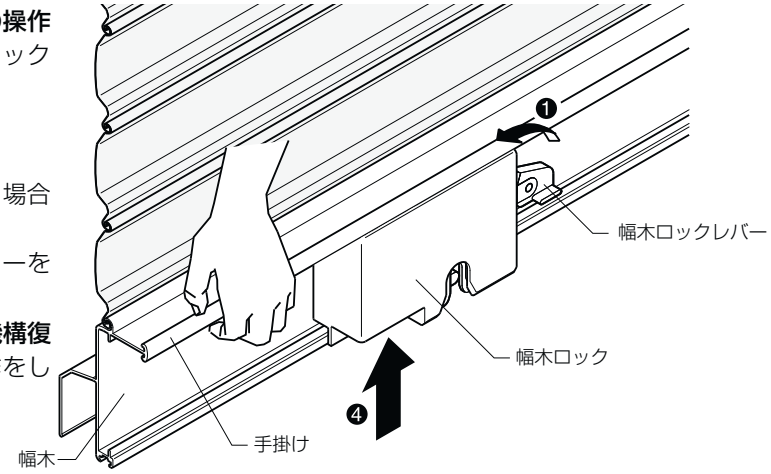
●「イタリヤ・クワトロ」は電動式シャッターですが、手動でも開け閉めできます。
※イタリヤ・クワトロの一部サイズには、停電時開閉機構が付いていません。

お願い

●非常時にも必ず開閉できるよう、「開閉のしかた」にしたがって1年に1回程度作動確認をしてください。

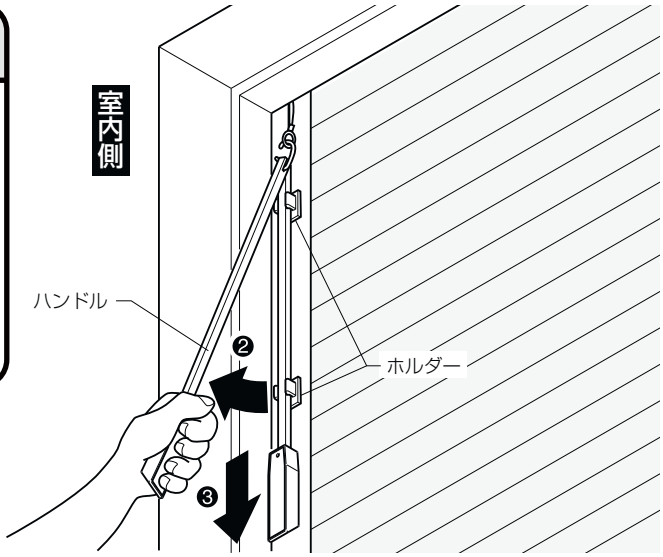
2 開閉のしかた

①サッシの障子を開き、P.11「**2.幅木ロックの操作のしかた**」を参照して、幅木ロックの幅木ロックレバーを解錠します。
②ハンドルをホルダーから外してください。
③ハンドルを下方に引いてください。
（ハンドルを下方に引くと大きな音が発生する場合がありますが、故障ではありません）
④そのまま幅木の手掛けを持ち上げ、シャッターを開けます。
※電動操作への復帰は、P.15「**3.停電時開閉機構復帰後の操作のしかた**」を参照して、復帰操作をしてください。



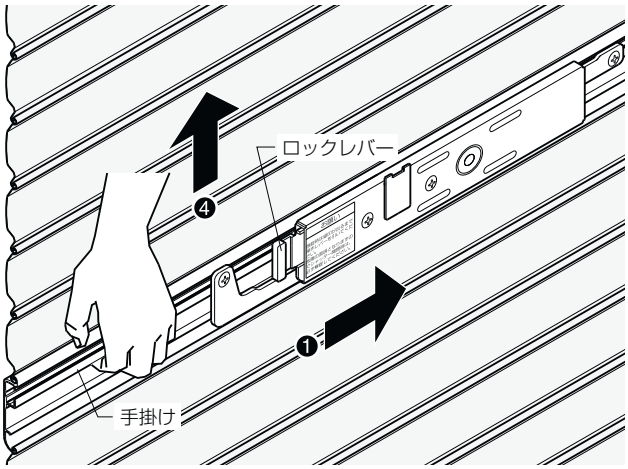
⚠ 注　意

●開閉位置に人・物のないことを確かめてから開閉してください。挟まれてケガをしたり、物を挟んだりするおそれがあります。
●開閉中には、顔や手を出さないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。



■スラット内側にロックがついている場合

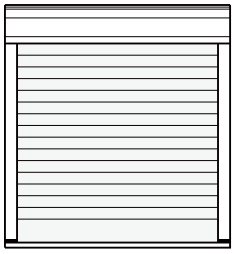
①サッシの障子を開き、P.12「**3.スラット内側ロックの操作のしかた**」を参照してロックレバーを解錠します。
②ハンドルをホルダーから外してください。
③ハンドルを下方に引いてください。（ハンドルを下方に引くと大きな音が発生する場合がありますが、故障ではありません）
④手掛けを持ち上げ、シャッターを開けます。
※電動操作への復帰は、P.15「**3.停電時開閉機構復帰後の操作のしかた**」を参照して復帰操作をしてください。



3 停電時開閉機構復帰後の操作のしかた

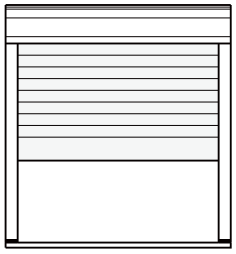
●停電時開閉機構復帰後は、次の操作をしてください。

■シャッターが全閉状態の場合

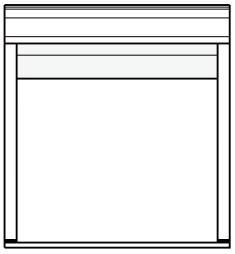


①そのまま②の操作に進んでください。

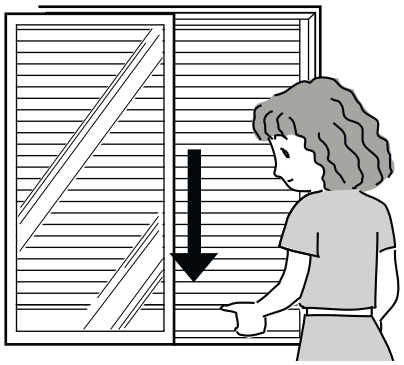
■シャッターが途中で停止している場合



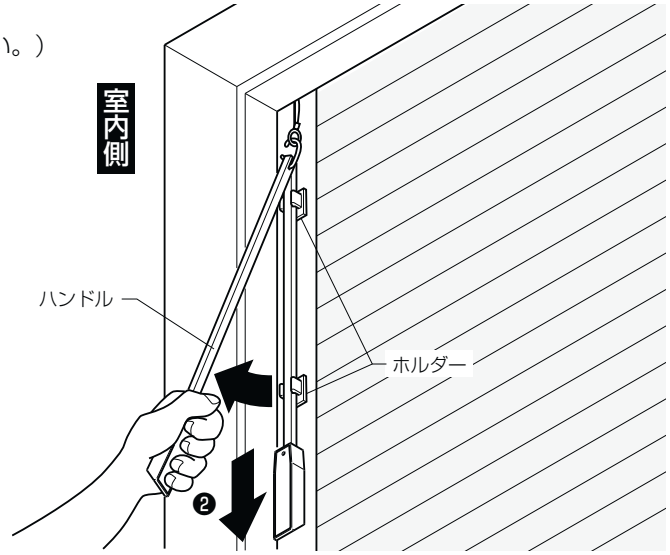
■シャッターが全開状態の場合



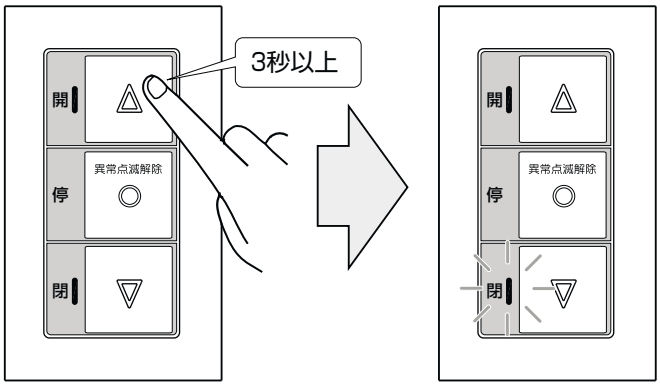
①手動でシャッターを全閉にしてください。



②ハンドルを下方に引いてください。
（ハンドルは操作後、ホルダーに固定してください。）



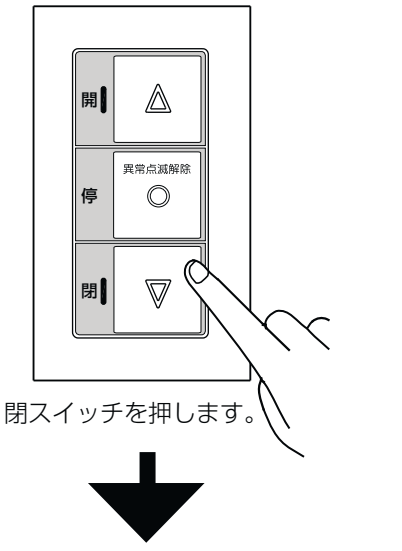
③開スイッチを3秒以上押してください。
閉ランプ（緑）が点滅に変わります。
（開スイッチを押している間に、シャッターが開動作する場合もありますが、閉ランプ（緑）が点滅するまで開スイッチを押続けてください。）



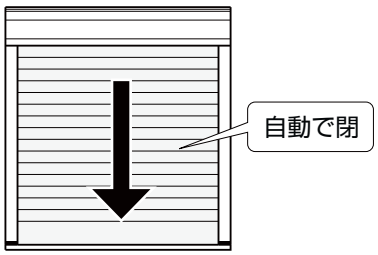
開スイッチを3秒以上押します。　　閉ランプが遅い点滅をします。

シャッターが開動作した場合

④シャッターが全開で自動停止した後に、閉スイッチを押してシャッターを全閉にしてください。



閉スイッチを押します。



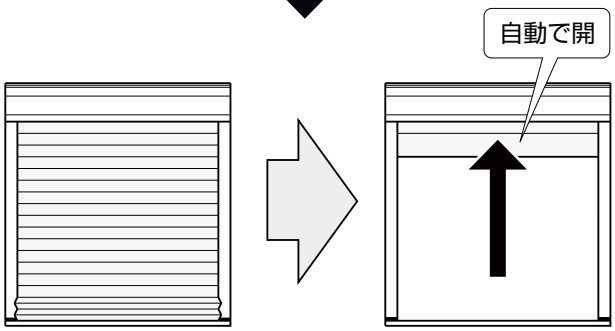
シャッターが自動で全閉します。

●シャッター全閉後、閉ランプ（緑）が点滅から点灯に変わり通常動作に戻ります。

シャッターが動かない場合

④閉スイッチを押してシャッターを閉動作させてください。
シャッター全閉時、少したるんで自動で開動作をします。

閉スイッチを押します。



シャッターが少したるみます。　　シャッターが自動で開動作します。

●シャッター全開で自動停止し、閉ランプ（緑）の点滅から開ランプ（赤）の点灯に変わり、通常動作に戻ります。

点検とお手入れ

この章では、「イタリヤ・クワトロ」の操作をする場合に守るべき安全事項を説明しています。

点検

●「イタリヤ・クワトロ」は少なくても1ヵ月に2〜3回開閉をしてください。長期間動かさないとスムーズに作動しなくなるおそれがあります。

●「イタリヤ・クワトロ」を安全にご使用いただくため下記の点検を行ってください。
点検を行って、作動不良や異常がありましたら、お買い求めの工務店、販売店又はLIXIL修理受付センターへご連絡ください。

●プレッシャーリターンセンサーの点検を行う場合は、必ず「プレッシャーリターンセンサーの作動点検」の手順にしたがってください。本手順にしたがわない場合、事故のおそれがあります。

●点検個所

番　号	点検部分	点検内容
①	ガイドレール部 スラット部	作動がスムーズに行えないような傷や曲がりなどの変形・異常な音はないか。
②	プレッシャーリターン センサーの作動	プレッシャーリターンセンサーが作動するか本章の点検手順にしたがってください。
③	停電時開閉	P.14「**■停電時開閉機構の使い方**」にしたがい、手動で開閉できるか。

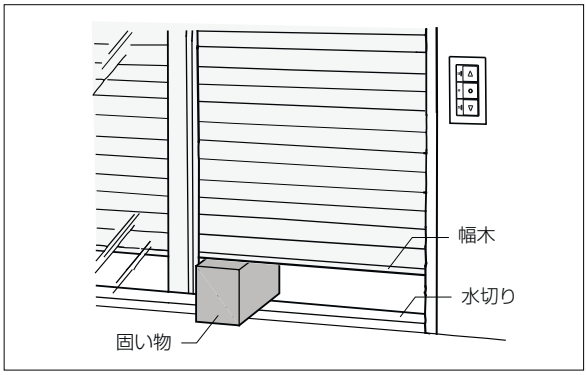
プレッシャーリターンセンサーの作動点検

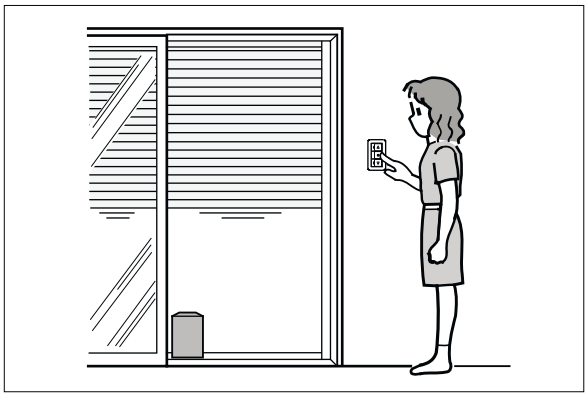
⚠注　意

●プレッシャーリターンセンサーを点検するときは、シャッター周辺に手をふれないでください。
シャッターと窓枠の間に手を挟まれてケガをするおそれがあります。

●プレッシャーリターンセンサーの点検時に、シャッターの下降が停止しない、シャッターが自動的に上昇しないなどありましたら壁スイッチの停止スイッチを押して、ただちにシャッターを停止させ、開スイッチを押してシャッターを巻き上げてください。事故・故障の原因になります。

①シャッターを全開にしてください。
②水切り中央に高さ300mm程度の固い物を置いてください。
※開口上部で実施しないでください。スラットの巻きだるみが発生し、スラットが破損する場合があります。
③壁スイッチの閉スイッチを押してください。
→シャッターが下降します。
④シャッターが固い物に当り、下降が停止し自動的に上昇し全開で停止します。
※壁スイッチは開ランプ（赤）が点滅しますので、停止スイッチを押して解除してください。
⑤シャッターが全開停止していることを確認してから水切りの上の固い物を取除いてください。
⑥シャッターが以下の状態のとき、お買い求めの工務店、販売店又は当社お客様相談センターへ連絡してください。
→シャッターの下降が停止しない。
→シャッターが自動的に上昇しない。





お手入れ

●「イタリヤ」はアルミニウムおよび鋼板で、「クワトロ」はアルミニウムで作られています。表面に付いたゴミ・ホコリ・砂・雨水などは、しみ、腐食、作動不良などの原因になりますので定期的に掃除してください。

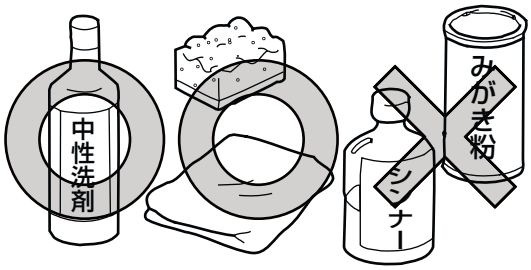
●「イタリヤ・クワトロ」下部の水切り部やガイドレール内部は常に清掃し、異物などがないようにしてください。作動不良や破損するおそれがあります。

●長期間、清掃しないままにしておきますと、表面やガイドレール内部に付着した汚れは、しみ、腐食、作動不良などの原因になります。汚れが軽いうちに清掃してください。清掃の目安は、少なくても月に1回程度です。
特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、こまめにお手入れしてください。

お願い

●「イタリヤ・クワトロ」のお手入れには柔らかい布・スポンジを使用し、金属製ブラシ・金ベラなどを使用しないでください。

●洗剤は、必ず中性のものを使用してください。



①「イタリヤ・クワトロ」の表面に付いたゴミ・ホコリ・砂・雨水などを取除いてください。

②ガイドレール内部や水切り部に付いたゴミ・ホコリ・砂・雨水などをふき取ってください。隅の方は、歯ブラシ・洋服ブラシなどで掃除してください。

③以下の要領で汚れを落としてください。

〔あまり汚れがひどくない部分〕

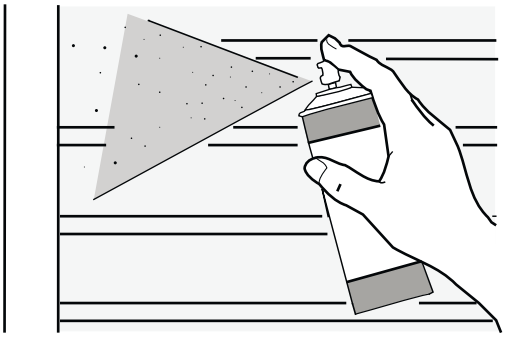
・ぞうきんで水ぶきした後、からぶきしてください。

〔特に汚れがひどい部分〕

・うすめた中性洗剤で汚れを落とし、洗剤が残らないようぞうきんでよく水ぶきした後、からぶきしてください。

④鋼板部にサビがでた場合

・まず、目の細かい紙ヤスリなどでサビを完全に落とします。次に、市販のスプレー式ラッカーを吹付けてください。そのとき、スラットのかみ合っている部分などの可動部にかからないように注意してください。



シャッターが動かない場合

ここでは、故障の見分け方および、故障やご使用上でご不明な点の連絡先について説明します。
シャッターが動かない場合、壁スイッチの停止スイッチを押してから、下表「シャッターが動かない場合」にしたがってください。

シャッターが動かない場合

ここをお調べください	処置のしかた	参照ページ
停電していませんか？	停電が終わるまでお待ちください。 停電復帰後、「**■イタリヤ・クワトロの異常表示**」を参照してください。	P.13
ブレーカーが落ちていませんか？	ブレーカーをセットしてください。 ブレーカーを戻した後、「**■イタリヤ・クワトロの異常表示**」を参照してください。	P.13
スイッチは確実に押しましたか？	本書の「**■操作のしかた**」を参照してください。	P.9
閉ランプ(緑)が点滅していませんか？ 開ランプ(赤)が点滅していませんか？	本書の「**■イタリヤ・クワトロの異常表示**」を参照してください。	P.13
ロックが施錠側になっていませんか？	解錠側にしてください。	P.11.12
ガイドレールに障害物がありませんか？	障害物を取除いてください。	—
ガイドレール・スラットなどが変形していませんか？	変形している場合はただちに「イタリヤ・クワトロ」の使用を中止し、「**■重要なお知らせ**」の窓口までご連絡ください。	P.1
5分以上連続して開閉しませんでしたか？	10～15分程度休ませてから開閉してください。	P.3
シャッターが凍結していませんか？	凍結している場合は、溶けるまで待ってから作動させてください。無理に作動させると故障の原因となります。	P.3

●お問合わせ先については、P.1「**■重要なお知らせ**」を参照してください。

商品保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中、商品に故障、損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取り扱いの施工店、工務店、販売店又はLIXIL修理受付センターにご相談ください。

■ 対象商品　サッシ・ドア商品

■ 保証期間　施工者よりの引き渡し日（注1・注2）から2年間（電装部品については1年間）

注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。

注2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、建築主様への引き渡し日とします。

※ただし、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」第2条第1項及び第2項に規定する「新築住宅」に取付けられた商品（同法第94条第1項に定める「雨水の浸入を防止する部分」として同法施行令第5条第2項に該当する部分に限る）からの雨水浸入については10年間とします。

■ 保証内容　取扱説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き無料修理いたします。

なお、強風雨時に、サッシ下枠に雨水がたまることがありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。

不具合といえる雨水浸入は、サッシ下枠を越えて雨水が流れ出たり、あふれ出たりすることです。

■ 免責事項　保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。

①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合
（例えば、海砂や急結剤を使用したモルタルによる腐食。中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良に起因する変色や腐食など）

②お客様の指図による、正規仕様でない特別な仕様にて製作した部分に起因する不具合
（例えば、サッシ・ドアの防犯性能、使い勝手、操作性の低下など）

③表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合

④建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合

⑤商品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗、摩耗など）や経年劣化（樹脂部品の変質、変色など）又はこれらに伴うさび、かびなどその他類似の不具合

⑥商品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食又はその他の不具合
（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。ガラスの熱割れ。強化ガラスの自然破損。異常な高温・低温・多湿による不具合など）

⑦商品又は部品の材料特性に伴う現象
（例えば木製品の反り、干割れ、色あせ、木目違い、ふし抜け、樹液のにじみ出しなど）

⑧天災その他の不可抗力
（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合

⑨施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合

⑩犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合

⑪引き渡し後の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
（例えば、クレセント・錠などの部品が、使用中にがたついたり異音などが発生し、異常が生じたまま使用し続けたことが原因で発生した傷・破損などの不具合）

⑫お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合

⑬本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合

⑭犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

＊保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

＊本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取り扱いの施工店、工務店、販売店又はLIXIL修理受付センターにお問い合わせください。

2012年2月

株式会社 LIXIL

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00　土・日・祝日 9:00～17:00（ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く）

TEL. **0120-126-001**　FAX.**03-3638-8447**

●旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は
旭トステム外装（株）サービスデスクナビダイヤル　TEL.0570-001-117

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00（祝日、年末年始、夏期休暇等を除く）

TEL. **0120-413-433**　FAX.**0120-413-436**

http://www.lixil.co.jp/support/

安全に関するご注意
ご使用の前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

個人情報保護について
当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

●商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。

LIXIL
Link to Good Living

私たちは、優れた製品とサービスを通じて、
豊かで快適な住生活の未来を創造する住まいと暮らしの「総合住生活企業」です。

ECO FIRST 1

地球環境のためにLIXILは
業界トップランナーとして
先進的な取組をしていきます。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXILオフィシャルサイトまで

http://www.lixil.co.jp/

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CADデータなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトから
ご確認ください。

業務用	MX1700	14	2015.6.20 発行

MX1700